

「将監ふるさとづくりプロジェクト

～50年を未来へ～」 **将監市民センター**

1 事業概要

将監地域への入居開始から50年が経過し、住民の高齢化が進む一方で、将監地域で生まれ育った若い世代や、近年新たに移り住んできた人々も増えてきました。そのような中で、これまで地域活動を担ってきた初期入居世代の人々の高齢化が進むのに対して、活動の中心の世代交代がなされていないという課題が出てきました。

そこで本事業は、50年という節目に高齢者世代からこれまでの将監地域のあゆみを聞くことで、若い世代が「ふるさと将監」を再認識する機会となり、現在将監地域で暮らす子どもたちが将監の歴史を継承していくことをめざし、複数年事業の市民企画会議として今年度から始まりました。



2 今年度の活動



おやじの会や放課後子ども教室のメンバー、小学校関係者など将監地域の今後を担うであろう方々が企画員として集まり、まずは本事業の正式名称を考えました。その結果、この事業がめざす「ふるさと将監の再認識」「子どもたちへの将監の歴史の継承」は、昨年度まで実施していた『将監「ふるさと」づくりプロジェクト』の目的を受け継ぐものなので、その名前を継承しつつ、これまでの50年をこれから先につないでいくイメージで『50年を未来へ』をサブタイトルに入れることに決めました。

さらに話し合いを重ね、来年開館する複合施設が地域の人たちにとってより身近で親しみやすいものとなり、ふるさと将監のよさの1つとなるように施設のシンボルキャラクターを一般募集しました。

3 成果と課題

企画員の1人が将監地区の過去の写真をたくさん提供してくれたことで、他の企画員たちが昔の将監を振り返りながら、未来に継承していきたい事柄を考えるきっかけになりました。

複合施設のシンボルキャラクターの一般募集に際して、応募用紙の内容や選定後の活用法などについて、企画員たちによる活発な話し合いが行われました。そして企画員と複合施設に関わる地域の方で作品を選定することに決まるなど、よい方向に話し合いが進んでいます。



しかし一方で、企画員のみなさんの予定が合わず、全員集まることがなかなかできていません。また、企画員全員の意識を統一し、方向性を擦り合わせることに難しさを感じています。

4 今後の展望



令和4年5月頃に予定されている複合施設開館時に、シンボルキャラクターを発表しようと考えています。また令和4年度内に、将監の昔と今を比較して辿るスタンプラリー等の自主企画イベントを開催することを通して、企画員それぞれが将監の良いところを再確認しつつ、このプロジェクトの協力者や新たな企画員を見つけていくことができれば、と考えています。